

環境経営の推進と活動領域

**環境経営実現のための計画に基づき、
「環境技術開発」と「全員参加の活動」で、
環境保全と利益創出を同時に実現します。**

環境対応から環境保全、そして環境経営へ

リコーグループの環境への取り組みを振り返ってみると、最初に法規制やお客様からのニーズにお応えするための「環境対応」の時代がありました。やがて地球市民として自ら高い目標を設定して環境負荷の削減に取り組む「環境保全」の時代を迎えました。そして今、私たちは、環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」の達成を目指しています。地球市民として、そして企業として、継続的に環境保全を進めていくには、活動を通じて利益を創出していくことが重要です。リコーグループは、環境経営情報システム^{*}などによって活動の環境面・経済面での成果を把握するとともに、今後重点的に活動を行うべき課題などを特定し、環境経営の継続的改善を図っています。

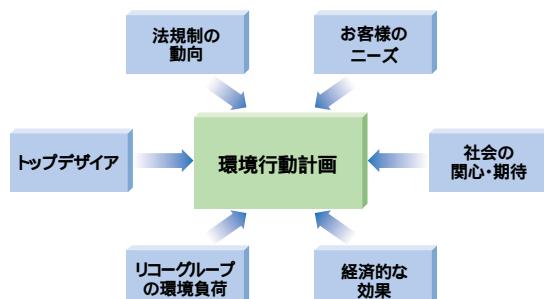
* 25ページを参照。

環境経営を実現するための計画

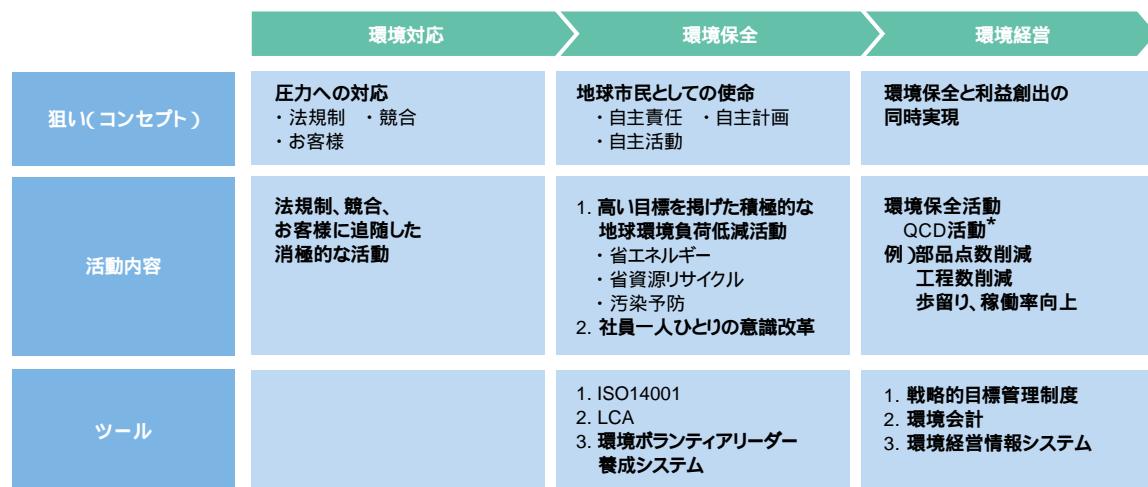
リコーグループは、2001年度に、2002～2004年度までの「環境行動計画^{*}」を策定しました。これは、環境保全と利益創出を同時に実現する「環境経営」を達成するための計画であり、リコーグループの環境負荷の認識や経済的效果だけでなく、法規制の動向や社会の关心・期待などを配慮して、活動領域と目標を策定しています。

* 33ページを参照。

環境行動計画策定の配慮事項



環境保全活動の3ステップ(環境対応から環境保全、そして環境経営へ)



* 品質(Quality)、コスト(Cost)、納期(Delivery)の管理改善活動

活動領域と推進方法

すべての経済活動を自然の回復力の範囲内に留め、持続可能な社会を形成するには、「温暖化ガスの排出」「資源の使用」「化学物質の使用」を自然の再生能力の範囲内に抑える必要があります。リコーグループは、エコバランス^{*1}で環境負荷を把握することにより、製品および事業所それぞれの分野での「省エネルギー」「省資源・リサイクル」「汚染予防」を環境保全活動の重要な領域としています。

さらに、継続的な環境保全活動によって利益を創出するために、「環境技術開発^{*2}」と「全員参加の活動^{*3}」によって、製品および事業活動における環境経営の実現に取り組んでいます。また「環境経営システム」を構築し、継続的な活動改善を図っています。

*1 27ページを参照。

*2 35ページを参照。

*3 23ページを参照。

環境経営システム

環境負荷の把握と削減

- ・環境マネジメントシステム p23
- ・環境経営情報システム p25
(環境負荷情報システム)

経済合理性の確認

- ・環境経営情報システム p25
(環境会計システム)

インセンティブの付与

- ・戦略的目標管理制度 p24

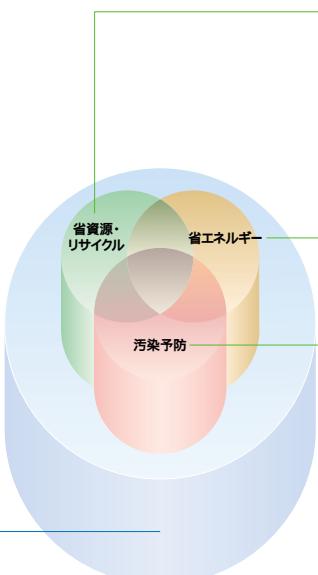
社員意識の向上

- ・環境教育・啓発 p73
- ・環境ボランティアリーダーの養成 p74
- ・ISO14001認証取得活動 p73
- ・ごみゼロ活動 p73

外部とのコミュニケーション/パートナーシップ

- ・環境経営報告書、ホームページ p69
- ・お客様とのパートナーシップ p35, 55
(製品情報開示、オフィスのクリーンソリューション)
- ・仕入先様とのパートナーシップ p44, 45, 72
- ・物流会社様・リサイクル事業者様とのパートナーシップ p72
- ・環境社会貢献 p63

リコーグループの活動領域と環境経営システム



省資源・リサイクル(事業所) p49

工場のごみゼロ化などを通して、最小の資源で最大の効果をあげる「完全生産」の実現を目指しています。

省資源・リサイクル(製品) p16, 17, 41, 58

資源枯渇を防止するために、リサイクル対応設計、リサイクルネットワークの構築、リサイクル製品の開発を行っています。

省エネルギー(事業所) p47

電力の効率利用や新エネルギーシステムの導入により、温暖化防止に取り組んでいます。

省エネルギー(製品) p16, 17, 38

地球温暖化の防止のために優れた省エネルギー製品の開発・販売を行っています。

汚染予防(事業所) p19, 51

製品の製造工程における環境影響化物質の使用・排出・廃棄量の削減を行っています。

汚染予防(製品) p16, 17, 43

製品に含まれる化学物質の適切な管理、環境影響化物質の使用禁止・削減を行っています。